

# 法思想史 I

科目ナンバリング FUL-207  
選択 2単位

長谷川 陽子

## 1. 授業の概要(ねらい)

西洋法思想の歴史的流れを、各思想家が展開した理論を中心に概観します。人間の営為にとって、法とはどのようなものであり、法を用いて人は何をしようとしていたのかを考えていきます。講義で扱う法思想は、当時の哲学・宗教・科学・文化の展開や、政治・経済の動向などとも関連しています。そうした背景を意識しつつ、各法思想家の理論と基本的特徴をつかむために、原典に触れつつ解説をします。法思想史 I では古代から近代までの思想を中心に扱います。

## 2. 授業の到達目標

- ① 法思想の歴史的な流れを理解することができる。
- ② 現代の法と法思想との関連を把握することができる。
- ③ 講義で得られた知見を、言語化して他者に説明することができる。

## 3. 成績評価の方法および基準

学期末の論述式試験(80%)を中心に評価します。出席確認を兼ねた感想シートを配布し、内容に応じて加点(20%)をします。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

深田三徳・濱真一郎編著 『よくわかる法哲学・法思想 第2版』2015年 ミネルヴァ書房

適宜レジュメを配布

その他参考文献については、随時お知らせします。

参考文献

中山 竜一(著), 浅野 有紀(著), 松島 裕一(著), 近藤 圭介(著) 法思想史(有斐閣アルマ Advanced) 有斐閣

## 5. 準備学修の内容

授業の該当箇所の教科書とレジュメ内容などの予習・復習を行ってください。

関心を持った原典については、各自で読み進めるようにしてください。

## 6. その他履修上の注意事項

内容の連続性から法思想史Ⅱを継続して受講することが望ましいです。

講義中は、他人への迷惑行為および私語を禁じていますので、該当の場合には退室をしていただきます。

## 7. 授業内容

- |        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 【第1回】  | イントロダクション:授業の概要と進め方 法思想史の説明 |
| 【第2回】  | ギリシャ・ローマの法思想                |
| 【第3回】  | 中世・近世の法思想                   |
| 【第4回】  | 近代自然法論の特徴と機能(1)ーホッブズ、ロック    |
| 【第5回】  | 近代自然法論の特徴と機能(2)ージェファーソン、ルソー |
| 【第6回】  | カントとヘーゲルの法思想概観              |
| 【第7回】  | 自然法批判と法実証主義的法思想             |
| 【第8回】  | 分析法と歴史法学、歴史法学と概念法学          |
| 【第9回】  | 国際社会における法の支配                |
| 【第10回】 | 国家と法の階級性                    |
| 【第11回】 | 価値相対主義法哲学ーラートブルフ            |
| 【第12回】 | イデオロギー批判と民主主義               |
| 【第13回】 | 日本の法思想の概観                   |
| 【第14回】 | 自然法論の概観と法実証主義による批判(1)       |
| 【第15回】 | 自然法論の概観と法実証主義による批判(2)       |